

■細川幽齋(藤孝) 文武全てに一流で、織田・豊臣・徳川三代を生き抜き、長寿を全う、養子ながら細川家中興の祖になった。

ほそかわゆうさい
.....1534=

三淵晴員の子に生まれ、

母は清原家の出で、早くから文人としての教育を受ける。

.....1539= 5歳：足利幕府管領細川家の分家細川元常の養子となる。

鉄砲伝来・・・1543= 9歳：

足利義輝將軍1546=12歳：与一郎と称し、藤孝と名のる。

勘合船終・・・1547=13歳：養父とともに、將軍足利義輝に従い、北白川城に入る。

ザビエル来日1549=15歳：三好長慶の軍の京都乱入に参戦、敵の首級をとるなど、戦功を上げるなど、**武は怪力無双といわれ、**

大友布教許可1552=18歳：

川中島の戦始1553=19歳：従五位下、兵部大輔。**御供衆として將軍足利義輝に従い、江州朽木谷に移る。**

.....1554=20歳：養父が死去。

.....1556=22歳：「宗牧連歌集」を編んだように、**連歌をマスターして、將軍・大名間の交渉に秀で、まさに、文武両道で、**

.....1558=24歳：將軍に従い、京都に帰る。

桶狭間の戦・1560=26歳：

川中島最激戦1561=27歳：

大村純忠受洗1563=29歳：長男忠興誕生。

川中島の戦終1564=30歳：次男誕生。

將軍義輝自刃1565=31歳：***義輝が松永久秀らに殺害されたため、その弟一乗院覚慶(義昭)を擁立。**

織田信長入京1568=34歳：**岐阜に赴き、織田信長を説いて、將軍を奉じて上洛するよう勧め、上洛に際しては、足利軍の大將として奮戦、山城勝竜寺城主となる。以後、専ら信長に従い、所々で戦い、成果を上げる。**

石山合戦始・1570=36歳：**三好党を滅ぼす。**

比叡山焼討・1571=37歳：「大原野千句」を張行。**三好長勝らとの対戦でも、敵の將を討ちとった。**

三方原の戦・1572=38歳：三条西実枝、細川幽齋のために、「初学一葉」を著すか、また、古今伝授を開始。

室町幕府滅亡1573=39歳：「大覚寺千句」を張行する。**時代の流れを読むことにもたけていて、義昭と信長が不和になると、信長にくみして感状を受け一方、將軍義昭への配慮から、姓を長岡と改める。**

長島一揆鎮圧1574=40歳：「玄旨公三百首御詠」成るか。

長篠の戦・・・1575=41歳：**功により、信長から丹波国の2郡を与えられ、以降、おもに明智光秀とともに丹波、丹後攻略に当たる。**

安土城築城・1576=42歳：**三条西実枝から、武人へは異例となる古今伝授を終える。**

上杉謙信没・1578=44歳：**信長の勧めで、光秀の女ガラシャを忠興の妻とするなど、盟友になるが、**

安土教会許可1579=45歳：里村紹巴宅で、「定家卿色紙開百韻」を張行する。三条西公国への古今伝授を開始する。

石山合戦終・1580=46歳：従四位下、丹後の国主となる。波々伯部貞弘より弓術の印可を受けた。

本能寺の変・1582=48歳 **時代の流れを読むのは相変わらずで、この間、早くも、豊臣秀吉と連携しており、**
***本能寺の変には、光秀の誘いを退けるだけでなく、信長を信奉して光秀討伐を主張する忠興の意見も退けて、中立を守り、それを知った武將が行動を手控えたため、結果として、豊臣秀吉の勝利に貢献、信長への配慮から、剃髪して幽齋と名乗り、家督を忠興に譲った上、信長追善のために「懐旧百韻」を張行。**

長久手の戦・1584=50歳：里村紹巴・羽柴秀吉と連歌を詠む。「富士山口天橋立図屏風」を宮中に献上。

豊臣秀吉関白1585=51歳：

秀吉太政大臣1586=52歳：「詠歌大概抄」をまとめる。**秀吉と家康の和睦の席に連なり、今度は、家康と親しくなっている。**

パレノ追放令 1587=53歳：九州より難波に帰り、「九州道の記」を著す。

刀狩海賊取締1588=54歳：中院通勝への古今伝授を開始する。

.....1589=55歳：「三十六人歌仙家集解難抄」を著す。

秀吉全国統一1590=56歳：豊臣秀吉の小田原攻めに従軍し、「東国陣道記」を著す。

文祿の役・・・1592=58歳：文祿の役に際し名護屋の本營に赴く。秀吉の命で薩摩に下り、島津歳久を切腹させる。「和訓押韻」。

関白秀次事件1595=61歳：**薩摩対策の功により、大隅国を与えられる。**

26聖人殉教・1596=62歳：**「伊勢物語闕疑抄」を著す(伊勢物語の研究書として今日でも重要)。松平忠吉からも弓術の免許。**

慶長の役・・・1597=63歳：

豊臣秀吉没・1598=64歳：鳥丸光広、細川幽齋の口述を筆記し、「耳底記」成る。

前田利家没・1599=65歳：大隅国を改め、越前国を賜る。

関ヶ原の戦・1600=66歳：***八条宮智仁親王への古今伝授を開始してまもなく、関ヶ原の戦になると、家康の東軍に組して、西軍に丹後田辺城に包囲される。辞世の句を読むまで覚悟していたが、古今伝授が中途半端にならないことを願う後陽成天皇の勅により、文を武に優先させて、西軍と講和して包囲が解かれる。この間、西軍が足止めされていたことで、関ヶ原では、東軍が勝利したため、戦後、家康から感謝され、親王に古今伝授の証明状を、宮中に二十一代集を呈し、結果として、文を優先する朝廷の権威をも高めた。**

江戸城完成・1606=72歳：**なお存命した室町將軍を知る唯一の人物として、徳川家康から室町幕府の故実編述を囑せられ、**

家康駿府退隠1607=73歳：**「室町家式」3巻を呈して、**

信長・秀吉・家康という国家支配に至った3代の武將すべてから信頼される稀有な存在になり、子の忠興が、関ヶ原の戦功で豊前、豊後40万石に加増転封、さらに、その子忠利が初代熊本藩主となって、明治維新時まで続くことから、細川家中興の祖とされる存在となって、

琉球使始・・・1610=76歳：**「老の木曾越」。**没した。

和歌、連歌、鞠、太鼓、料理、茶道、儒学、書道、故実に通じた当代有数の教養人であり、とくに中世末期から近世初期の歌壇の中心的存在で、二条派の正統を伝え発展させた。